

てらうち

寺内ダム防災操作による河川水位低減効果について

独立行政法人^{みずしげんきこう}水資源機構が管理する寺内ダム（福岡県朝倉市）では、8月10日未明からの大雨において、増水した河川水をダムへ貯め込む「防災操作」を行いました。

今回の降雨により、寺内ダムでは、約500万立方メートルもの流水を貯留し、最大流入量毎秒約178立方メートル時においては、ほぼ全量である毎秒約177立方メートルの水をダムに貯留することにより、寺内ダム下流の約8.5キロメートルにある^{かなまるばし}金丸橋地点では、ダムが無い場合と比べ河川水位を推定で約1.46メートル低減できました。

※詳細は、別紙を参照下さい。

令和7年8月13日



独立行政法人水資源機構
筑後川上流総合管理所

問い合わせ先			
独立行政法人水資源機構	筑後川上流総合管理所	管理課長	村田
住 所	：福岡県朝倉市江川 1660-67		
電 話	：0946-25-0113		
ホームページ	https://www.water.go.jp/chikugo/chikujyo/		

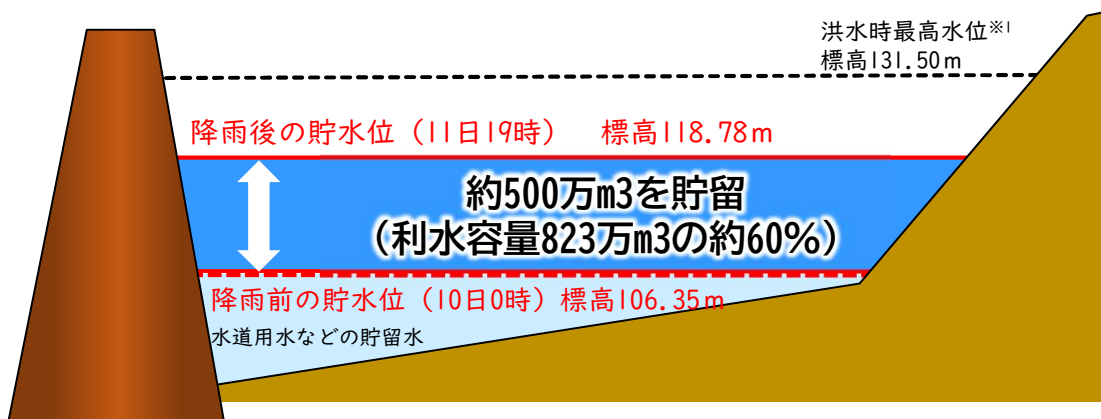
寺内ダムの洪水調節による治水効果（筑後川水系）

速報値
令和7年8月

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- 8月10日未明からの大雨により、寺内ダム上流域では最大時間雨量約72mm(10日18時～19時)、10日0時の降り始めから約320mmの総雨量を観測しました。この雨量は、寺内ダム8月の平年雨量約250mmの1.3倍に相当します。
- 寺内ダムでは、8月10日からの降り始めから11日19時までの間で約500万立方メートルもの流水を貯留し、最大流入量毎秒約178立方メートル時には、ほぼ全量である約177立方メートルの水をダムに貯留することで、河川水位の上昇を抑えました。
- これにより、ダム下流の金丸橋地点において約1.46メートルの水位低減効果を発揮することができたと推測。

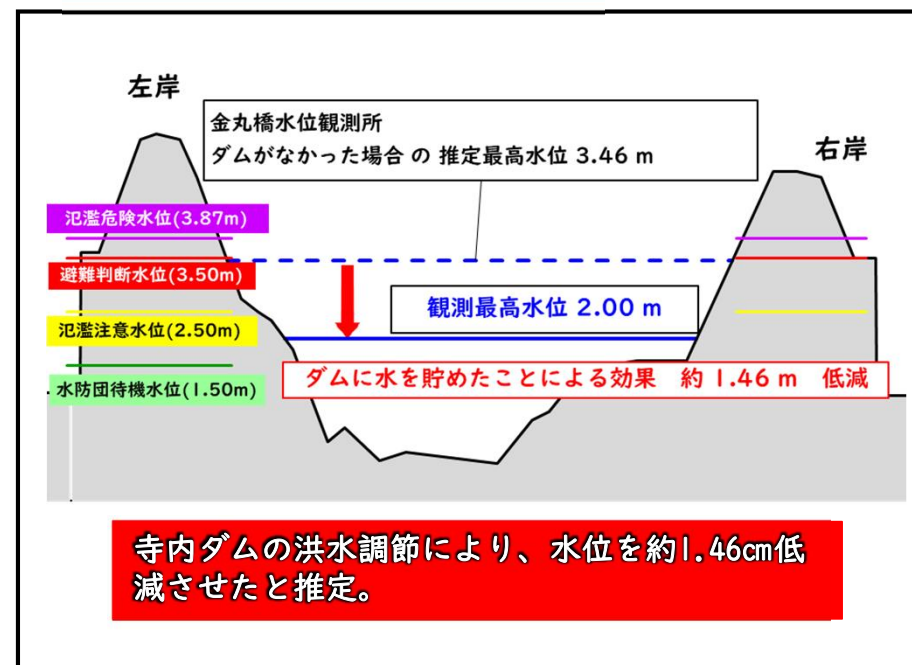
10日～11日の貯留状況



※1 洪水時最高水位：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位



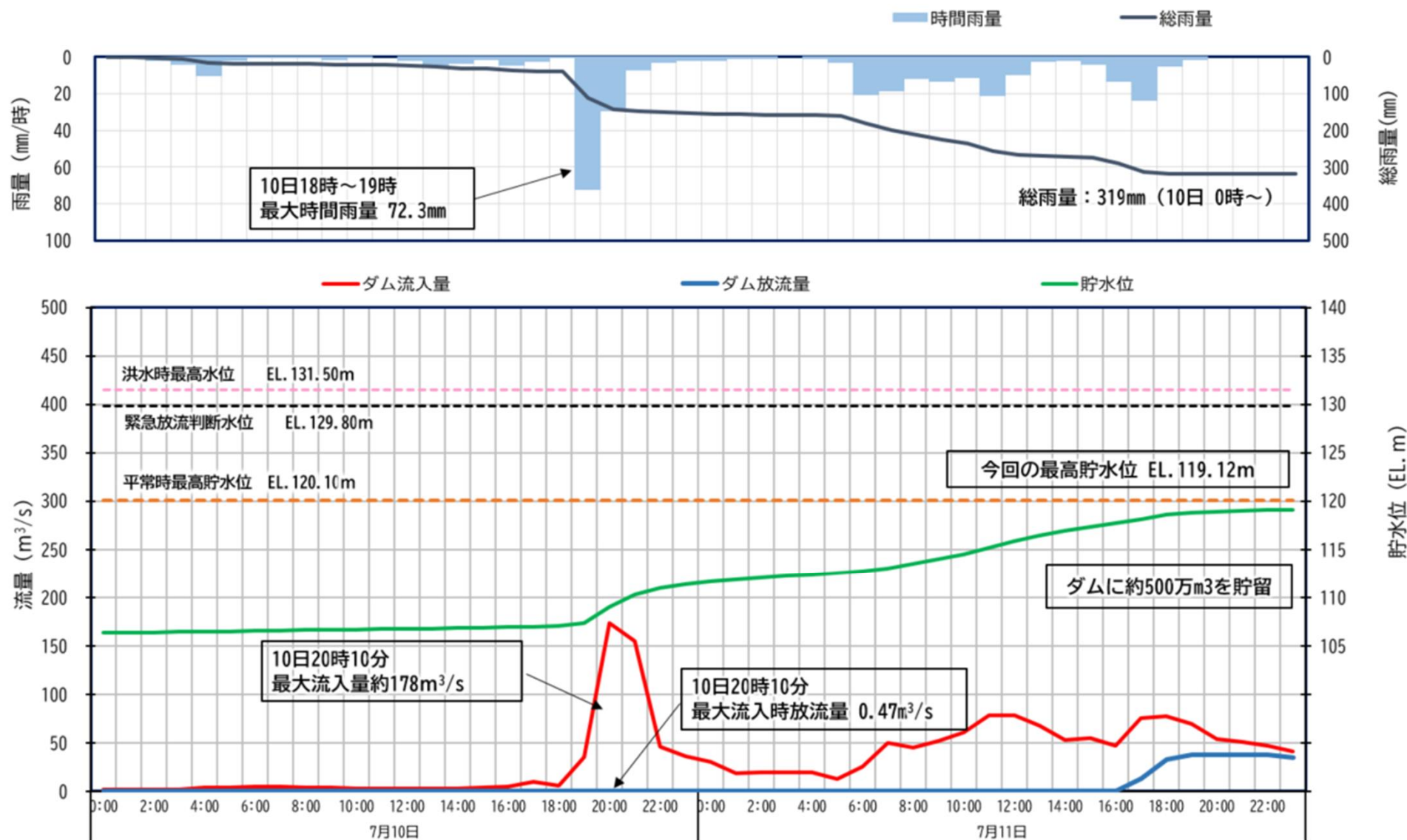
水位低減効果（金丸橋地点）



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査により数値等が変わることがあります。

【参考】寺内ダムの防災操作

●寺内ダムによる洪水調節（R7.8.10 大雨による出水）



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査により 数値等が変わることがあります。

【参考】寺内ダムの概要



【寺内ダム管理所】
福岡県朝倉市荷原1516-6

完成年	1978年（昭和53年）
河川名	筑後川水係 田川
型式	ロックフィルダム
堤高	83.0m
堤頂長	420.0m
堤体積	3,000,000m ³
ダム湖名	美奈宜湖
湛水面積	0.9km ²
集水面積	51.0km ²
総貯水量	18,000,000m ³

●洪水調節

ダム地点における計画高水流量300m³/sのうち180m³/sをダムに貯留し、筑後川上流ダム群の洪水調節と合わせて下流の高水流量を低減させ、洪水被害を軽減します。

●流水の正常な機能の維持

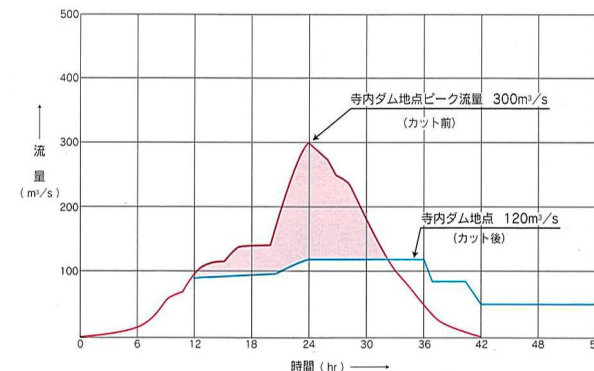
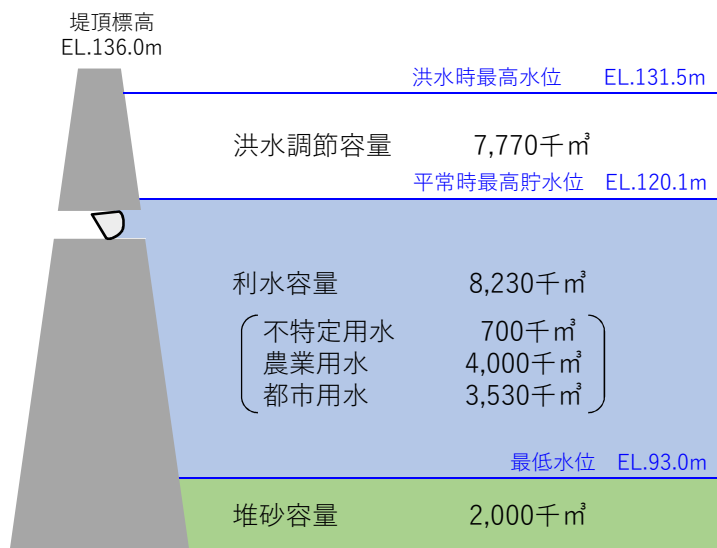
筑後川下流の既得用水の補給など流水の正常な機能の維持と増進を図ります。

●農業用水の補給

江川ダムとあいまって、小石原川、佐田川沿いの2市2町（朝倉市、小郡市、筑前町、大刀洗町）約4,500haの水田及び畑地に農業用水を補給します（最大11.795m³/s）。

●水道用水の供給

江川ダムとあいまって、瀬ノ下地点において、福岡地区水道企業団、福岡県南広域水道企業団、佐賀東部水道企業団及び鳥栖市の水道用水として最大3.335m³/sの取水が可能となるよう用水を供給します。



【洪水調節図】

貯水位等の最新情報は
こちらから→
『川の防災情報』へのリンク



【参考】寺内ダムの位置

- 寺内ダムは佐田川（筑後川河口から約42km）の約11km地点、治水基準点『金丸橋』は約2.5km地点（寺内ダムの約8.5km下流）に位置する。

